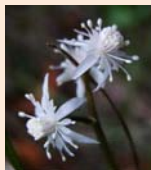




～ 有瀬キャンパスにある薬用植物園(薬草園)から薬学部の皆様へお届けします ～

クロスアップ薬用植物(その1): オウレン



学名: Copltis japonica
和名: オウレン(黄連)
観賞時期: 2月頃、14月頃、21月頃、他
キクゴケクオウレン属の多年生草本...

日本のオウレンは、その小葉の切れ込みによって3種類に分類されており、当園では観察することができませんが、外にコセリオウレン(小芹黄連)...



また、オウレンの花には雄花、「両性花」、「雌花」があります。
当園では観察始める初期に雄花が、雌花に1-2週間遅れて両性花の株が一斉に開花し...



いかがでしょうか。
その花を観察するだけでも面白いオウレンですが、花の後にできる実も観察を放射状に輪生するユニークな形状です...

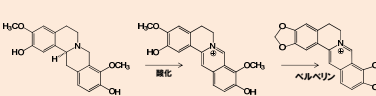
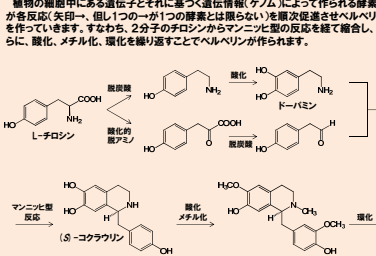


学名: Carum officinale
和名: サンショウ(山椒)
学名: Prunus armeniacae var. anu
和名: アズキ(蜜子/蜜)

生薬「オウレン(黄連)」について
オウレンの根とは全く異なる根茎は、生薬「オウレン(黄連)」として、また「オウレン」を粉末としたものがオウレン末(黄連末)として日本薬局方に収載されています...

ベルペリンとは
分子内に窒素原子を有する天然有機化合物であるアルカロイドに分類され、生合成的にアミン/酸を出発物質として作られます...

ベルペリンは植物内でどのように作られるか?
植物の細胞中にある遺伝子とそれに基づき遺伝情報(ゲノム)によって作られる酵素が各反応(矢印)、1個1つの一歩の酵素とは異なる1つの反応促進させベルペリンを作ります...



漢方薬としての黄連について
黄連は、漢方薬的に清熱劑に属し、炎症による熱感や、のぼせ、イライラなどを改善します...

単煎薬心臓
みおちがつかえ、ときに悪心、嘔吐がより食欲不振で胸が詰って下痢傾向のあるものの消化不良、神経性胃炎、口内炎等に用います。

黄連解毒湯
体力は中程度以上で、ほげげ呼吸で、イライラして落ち着かない傾向のあるものも不眠症、神経症、二日酔い、高血圧、心臓リウマチ、皮膚の痒み、口内炎などに用います。

三黄解毒湯
黄連解毒湯を使うような症状で、便秘を伴うときに用いられます。これは、下痢としての効果のある生薬、大黄が含まれているためです。

アトピー性皮膚炎と漢方薬
アトピー性皮膚炎の治療には、ステロイド系の外用薬や抗アレルギー薬が用いられますが、副作用に注意が必要ですが、そのために漢方薬が用いられます...

クロスアップ薬用植物(その2): コブシ

学名: Magnolia kobus
和名: コバシ(辛夷/學)
観賞時期: 20月頃、40月頃、51月頃、他
マグノリア科マグノリア属の落葉広葉樹...

コブシの花は、早春の山に真先に咲き出し、いち早く春の到来を告げる花(報し)としてよく知られています...

コブシの開花を目撃し農作業を始めると、遠くより見ると桜に似ていることから、地方により「田舎桜」「田舎桜」「田舎桜」...

なお、コブシの和名は、その昔や果実が「薔りにぶし(學)」のような形をしていることが由来だと書かれています...



マグノリア科マグノリア属
マグノリア科マグノリア属の仲間の中には、コブシと同じく遠くを漂う タムシバ(白虫草)...

コブシは、タムシバの花は本場に似ています。花の付け根に小さな葉を1枚つけているのがコブシで、タムシバにはその葉がありません...

一方、ハクモレンは中国産で、公園や庭園で良くその姿を目撃しますが、山に自生する姿は見られません。コブシとの比較では、ハクモレンの花の方が一回り大きく、花弁の肉厚も厚いため柔らかく感じられます...

コブシ(辛夷)
タムシバ(白虫草)
ハクモレン(白虫草)

なお、当園には「ホト(ホト)」「ササササ(藍砂木)」、「アズキ(蜜子)」、「アトピー」...
ぜひ皆さんも、当園にてマグノリア科マグノリア属の植物を観察してみてください。

薬草園からのメッセージ

** 薬草園ガイド **
有瀬キャンパスの南西側に位置する当園への連絡は坂道と階段です。
定期は「下り」階路上の通りかきですが、当園への道では、様々な植物が四季折々の花に彩られてお楽しみいただけます...



** ご挨拶 **

こんにちは。職員Mと薬用植物園補助員の美甘(みかみ)と申します。
昨年4月に当園に就任してから一年、初めて担当する植物園で育成の仕事への不安は少なくなってきていますが、与えられた環境の中で精一杯成長し、子育てを授けようとする植物たちの強さと逞しさに、時に驚き、感服し、そして助けられながら、無事に2年を迎えることができました...

その間、去年10月(当時)の昔懐かしい、去年の5-6月に実施された演習実習の薬草園見学会で当園へ足を運んでいただきました。
しかしながら、KPC&KACの距離はその物理的な距離以上に遠く感じられ、薬学部からご案内いただく学生・教職員さんとの機会はまだ未だ限定されたものですが、薬学部の附属薬用植物園としてのありべき姿をいっしょにつくってまいりたいと考えています...

** 職員紹介 **
写真(左): 園長、神谷浩平
写真(右): 補助員、美甘隆子
写真(中): 派遣職員、立花彰

園長の神谷先生は神谷氏は、当園では絶滅危惧種として環境省のレッドデータブックに掲載されている植物を栽培も観察してもらえますが、当園で神谷先生と遭遇する機会も、絶滅危惧種の観察にも関わらず、可能性は少なからずあります...

立花氏は、週4日の勤務シフトをベースに出勤していただいています。
一見さんにはぶらぶらしてご想像し、でもご安心ください。取っ付きは悪いですが、その内は正直に、機会があればお話しさせていただきます。
余閑にりますが、夏場に変わって来た立花さんのお姿が某製菓会社マスコットキャラクター「カールおじさん」に見えてしまうのは園長だけでしょうか。

最後に職員Mと美甘さんが、当園に最も観察に出発する際に、その昔懐かしい本誌が多数、本誌に対するご意見・ご感想、掲載内容の訂正等のご指摘がございましたら、お手数ですが下記ご連絡先までお願いいたします。

3月に花を咲かせた薬用植物

スプリング・エフェメラル

番外編

編集後記

学名: Corytho alba
和名: レンギョウ(連翹)
学名: Forsythia suspensa
和名: レンギョウ(連翹)

スプリング・エフェメラル(Spring ephemeral)とは、春先に花を咲かせ、葉も落ちて枯れてしまったりと、あともはや地下で過ごす春植物の総称です。
「春の妖精」との呼び名もあふように、いずれも小柄な草本で、可憐な容姿とさささと併せ持つ、なんとも不思議な植物です。

春外編
本誌の編集作業がピークに達した3月中旬、一日も早く開園になったコブシの園をめぐり、お楽しみを伺い、やってきました。
本誌は、開園した4本のコブシの中で最も早く花が咲いた40号園の1本を、つづきで開花するや否やの頃で、次から次と物見事に食べられてきました。

園長先生は、週4日の勤務シフトをベースに出勤していただいています。
一見さんにはぶらぶらしてご想像し、でもご安心ください。取っ付きは悪いですが、その内は正直に、機会があればお話しさせていただきます。



本誌の編集作業がピークに達した3月中旬、一日も早く開園になったコブシの園をめぐり、お楽しみを伺い、やってきました。
本誌は、開園した4本のコブシの中で最も早く花が咲いた40号園の1本を、つづきで開花するや否やの頃で、次から次と物見事に食べられてきました。

